

積善

題字 第241世天台座主 玄深師(恵亮院藏)

餘慶寺だより

編集・発行 上寺山餘慶寺

〒701-4232 岡山県瀬戸内市邑久町北島 1187

納経所 TEL 086-942-0186 FAX 086-942-0187

恵亮院 TEL 086-942-3788 FAX 086-942-5422

本乗院 TEL 086-942-2791 FAX 086-239-5823

吉祥院 TEL/FAX 086-942-3789

定光院 TEL 086-942-2356 FAX 086-944-1490

明王院 TEL 086-943-1030 FAX 086-943-1069

圓乗院 TEL 086-942-2356

ホームページアドレス <http://www.yokeiji.com/>

毎月十八日は観音縁日。午前八時より本堂にて観音経読誦法要を行います。

さくら祭り 4月1日(月)～8日(月)

天上天下唯我独尊(どくそん)

今からおおよそ二五〇〇年前の出来事です。皆さんはこの伝説を信じていることができますか？

お釈迦様は、お生まれになってすぐに七歩あるき、右手で天上を、左手で地上を指さして「天上天下唯我独尊」と高らかに唱えられたと伝えられています。それが今に伝わる「釈迦誕生伝」のお姿です。

あなたが赤ちゃんだったころ

ある日のこと、子守りをしていたわが子が、機嫌よく手足をバタバタさせたあと、このポーズをとったまま、につこりと笑っていました。誕生から数ヶ月のことでしたので、さすがに立ちも坐りもできませんが、ポーズだけは「釈迦誕生伝」そのものでした。そんな赤ちゃんとお釈迦さまのポーズは、おそらくは人間の自然な動きなのでしょう。ゆえに、わたしたち人間だれしもが、かつて赤ちゃんだった頃、実はこのポーズを取ったのかもしれない。

「天上天下唯我独尊」。この世に生を受けて、「天の上にも天の下にも、唯だ我が独つの尊いいのちを与えられた」と誰もが宣言したと考えれば、今ある自分のいのちは、多くの尊いいのちによつて生かされているんだと、感謝の気持ちにたどり着くものです。

さくら祭りにおまいり下さい。

餘慶寺では、四月一日から八日までをさくら祭りとし、お釈迦様の誕生を祝い、本堂には花御堂をお出しし、ご参拝の方に甘茶をそそいでいただけるようにおまつりしています。そして薬師堂では護摩祈禱を行います。

特に四月八日には、恒例になりました甘茶の無料接待があります。ご自身で召し上がるだけでなく、持ち帰ってお仏壇にお供えいただくのも良いかと思えます。入れ物をご用意してお参り下さい。

四月八日(月)

十時～十六時

甘茶の無料接待



餘慶寺 春の行事

涅槃会(ねはんえ)

三月十五日(金)

十六時 本堂

お釈迦様のご命日は二月十五日ですが、餘慶寺では月遅れでお勤めします。本堂に涅槃図を掛けて法要をします。

降誕会(ごうたんえ)

四月八日(月) 八時 本堂

お釈迦様の誕生日で、「花祭り」「灌仏会」ともいいます。本堂の正面に用意された花御堂にお釈迦様の生まれたときのお姿である誕生仏を祀り、甘茶をかけてお祝います。十時から十六時まで甘茶の無料接待があります。

さくら祭り(さくらまつり)

四月一日(月)～八日(月)

本堂 灌仏(甘茶かけ) 一日～八日

薬師堂 護摩供

一日～七日 午前十一時
八日のみ 午前十時

護摩供が終わり次第、薬師如来様も特別に拝観できますので、ぜひお詣りください。(午後二時まで。八日のみ午後三時まで)

添え護摩木と祈禱のお申し込みは、納経所または薬師堂でうかがいます。

毎月八日は薬師縁日。午前十時より薬師堂にて護摩祈願法要を行います。

境内整備 遊慶の庭

平成二十一年より進めてまいりました境内整備の締めくくりとして、本堂前から薬師堂へ、そして八角堂へと続く石畳ができました。新しいにもかかわらずそれを感ぜさせないあたたかみのある仕上げになっています。またそれだけではなく薬師堂の石段から西に向かつて日吉社・愛宕社の前にかけて見事な石組みが配置されています。

石畳の始まる右手にはどっしりとした大きな岩がすえてあり、そのほとりに「遊慶の庭」と彫られた小さな石柱があります。「遊慶の庭」と名付けられたこれらの石組みや石畳は、岡山市東区政津にお住まいの作家 岩本俊男氏によるものです。

岩本氏は、岡山県吉備中央町出身の作家 重森三玲氏の直弟子です。重森氏は京都東福寺の「八相の庭」などのモダンな意匠と力強い石組みをもちいた枯山水庭園でよく知られています。その心と技を受け継いだ岩本氏が組んだ薬師堂前の大小様々の石は、他の配置はあり得ないと思わせるほどにしっくりと餘慶寺の境内になじんでいます。工事中奥様に「よくびつたりの位置におさまりますね」とおたずねしたところ、「(岩本氏は)石の音が聞こえるから」とのことでした。有るべき所へ有るべき様におさめる、どこか仏教にも通ずるような気がしました。

四月には「遊慶の庭」に植えられたしだれ桜が初めての春をむかえます。お詣り際には本堂前から薬師堂をのぞみ、石畳を歩いて薬師堂へと進み、また回廊の椅子に座って異なる方向から薬師堂と共に石組みを見ていただいで、ぜひゆっくりと餘慶寺で過ごしていただければと思います。



上寺の森を育てる会

樹木名(草本を含む)の由来アラカルト

太古の昔から人類は、樹木を燃料に、また建物や生活用具の材にと利用してきました。そして個々の木に名前を付けました。その名前も自然発生的には、地域によってまちまちであったようですが、律令制度が始まり樹木も税の物品として納めるようになるなど名前を統一する必要が出てきました。その名前の由来にはいろいろの説がありますが、ここでは筆者の私見であることを断りながら、その一部について書いてみます。

○五感(視・聴・触・味・臭)に基づくもの

- ・マサキ:常緑なので「真青木」から
- ・ツバキ:葉の特徴から「艶葉木」「厚葉木」などから
- ・ヒイラギ:葉の刺に触れるとひりひり痛む古語「ひびらく」から
- ・スイバ:噛むと酸っぱい味がする「酸葉」から
- ・クサギ:葉を揉むと臭い匂いがする「臭木」から

○生育状態など総合的な特徴から

- ・スギ:自然に成長したスギは真っ直ぐに伸びるので「直木」
- ・グミ:小枝が尖ったグイの木になる実から「グイ実」
- ・ハス:果実が「蜂巢」状の果托に入っているから
- ・カエデ:葉の形が蛙の手に似ていることから「蛙手」

○用途に関わるもの

- ・ヒノキ:古代にはこの木をこすって火を起したことから「火の木」
- ・シロツメクサ:輸送用のクッション材としてつめたことから「白詰草」(草本)

○中国や韓国をはじめとした外国より渡来したもの

- ・レンギョウ:感銘の音読み連翹から
- 由来の不明のその他
- ・クヌギ:「国木」またはドングリを食用にしたことから「食の木」から

以上、ほんの一例にしかすぎませんが、木や草の名前の由来を尋ねると、樹木への愛着が増し、歴史の跡が偲ばれます。

ひとくち法話

きょう彼岸 菩提のたねを蒔く日かな (蕉村)

寒さの厳しかった冬も終わって、草木が弥よ生うる季節となりました。やがて春の彼岸もやってくるでしょう。

彼岸とは、サンスクリット語の「パーラミター」(波羅蜜多)を日本語に訳した「到彼岸」からきているといわれています。私たちの住んでいる煩惱や迷いに充ちたこの世界を「此岸」といい、仏さまの悟りの境地である世界を「彼岸」といいます。「到彼岸」とは、仏さまの世界の彼岸に心を到らせるという意味です。

私たちは、六波羅蜜という六つの徳目を実践することによって悟りの世界即ち彼岸へ到ることができるとされています。その六つとは

〔布施〕…金品のみならず、無財の七施にもあるように心の面からも施しをすること。

〔持戒〕…社会生活をしていく上での規範を守ること。

〔忍辱〕…困難に耐え忍ぶ強い心を持ち精一ぱい力を尽くすこと。

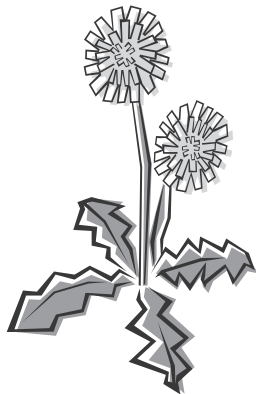
〔精進〕…心身を励まして絶ゆまず真実に向って努力すること。

〔禪定〕…いかなる時にも心に平静を保つこと。

〔智慧〕…真実の姿を見極める力を得ること。

です。菩提のたねを蒔くというのは、彼岸へ到るためのこれら六つの徳目を実践するという意味です。

六つの徳目はむづかしい事のようにですが、彼岸の一日を一つの機会として、日頃のわがままや怠け心を押さえて、少しでも悩みを減らし、この此岸から彼岸に近づきようによいようではありませんか。



上寺山を良くする会

第十三回詣りのご利益

お陰様をもちまして、今回の両詣りも訪れるご参拝の皆様にご福を分かち合いながら、円成いたしました。

中でも年明けカウントダウンで一斉に夜空に風船を放つ行事は、それを楽しみにして下さる方の輪も年々広がり、賑わいをみせています。

その風船の届いた先より、お便りが寄せられましたので、ご紹介いたします。

「二月一日の夕方頃、私の家の庭にこの風船が落ちていました。岡山県から届いた物という事で、家族皆がびつくりしました。元日からの出来事に、私達の方も何か縁起良く感じられ、とても良い年始のスタートができた気がしております。皆様の願い事が成就することを祈りいたします。」(茨城県取手市の男性より)

その他、千葉県、埼玉県、山梨県、神奈川県、静岡県、愛知県の方々よりご連絡いただきました。当会といたしましても、このご縁を大切にしたいと思います。

上寺の森を育てる会

里山の保全活動でお手伝い下される方を募集いたします。

上寺の森を育てる会では、無事故・防犯・景観の面より、環境整備や維持管理を心掛けておりますが、人手不足のために十分な活動が出来ておりません。そこで里山の保全に興味のある方を募集いたします。

① 樹木や山野草、生き物に対する調査や保全活動をして下さる方。観察会や講座の開講も計画していきます。

② 草刈り機や除草剤による遊歩道周辺の維持管理。人工ゴミなど不法投棄物の監視回収をして下さる方。

③ チェンソーを用いた森林整備。風倒木などの自然災害時の除伐。計画的な間伐をして下さる方。

のいずれかです。基本的に無報酬でお願いすることになりますが、特典といたしましては、山菜・山の幸や資材などの提供、他の里山グループとの交流や技術養成講座へのご案内などがあります。よりよい里山を目指し、ご理解ご協力をいただける方、お問合せは恵亮院(086-942-3788)まで。

薬師護摩祈禱 護摩本三百円 木札授与三千円／五千円

毎月第二日曜日午後二時より阿弥陀堂にて納骨堂説明会

十三仏について(一) 不動明王

人が亡くなられて最初の節目が初七日しよなのかです。その初七日に亡くなった方を導いて下さるのが不動明王です。

不動明王は「お不動さま」と呼ばれて親しまれています。しかしそのお姿はとても恐ろしくて近づきたいです。

仏さまは、私たち人間が正しい心を持つために三つの方法で導いてくださいます。

一つめは立派なお姿をした仏さまが直接教えを説くという方法。二つめは、それぞれの人々にあった優しいお姿によって教える方法。三つめは、ただ教えを説くだけでは聞き入れてくれない人に、怖い顔をして叱るとい方法です。

お不動様は悩みが多く、素直に教えを聞くことが出来ない人のために、三つめの方法をとられます。

お不動さまの恐い表情は、私たち人間を救いたいという慈悲のあらわれです。親が子を叱って教えることと同じと言えるでしょう。

お不動さまは左の手に縄を持ち右の手に鋭く長い剣を持たれています。縄はわれわれの悪い心をつかまえるためにあります。長い剣はその悪い心を一刀両断するため、背中に燃える炎は、不純なものを焼き尽くし、正しい理性が働くのをあらわしています。



納経所から

期間限定「甘茶パック」1つ200円

四月一日〜八日

毎年楽しみにしていたいただいている甘茶パックを、今年も用意させていただきました。甘茶の無料接待は四月八日ですが、この日において頂けない方や、お家でゆっくり飲みたいという方におすすめの、めずらしいティーバッグの甘茶です。おみやげにもどうぞご利用ください。さくら祭り期間中には、納経所にてお求めいただけますが、なくなりしだい終了とさせていただきますのでご了承ください。



納経所でお手伝い下さる方を募集いたします。

日曜、祝日やお寺で特別な行事がある時に、納経所（餘慶寺会館）に来て下さる方を数名募集いたします。年齢不問です。時間帯は午前八時〜午後五時で、仕事内容は、納経受付、参拝者の対応、電話受付、お守りなどの授与などです。お問合せは恵亮院（086-94213788）まで。

編集後記

今年の冬は、首都圏では積雪となりニュースになっていましたが、餘慶寺は幸いにも雪花が舞う程度でした。

「三寒四温」の時期となり、新しい春の訪れがすぐそこまできているのを感じます。

さて、今春より中国・四国・九州地区の寺院からなる百八観音霊場が開かれる予定です。詳細はまたお知らせしますが、春の暖かさを感じながら新しい旅に出かけてみるのもいいですね。